

冬の季節を彩るシクラメン

冬の季節を彩る花として、毎年人気を集めている秦野産のシクラメン。11月下旬から今月上旬にかけて、出荷が最盛を迎えた。今年もJAはだの花き部会鉢物部の部員は、丹精して育ててきたシクラメンの出荷に汗を流した。

平沢の富田茂晴さんが営む富田花園では、じばさんや首都圏各地の市場などに、4、6号鉢やガーデンシクラメン約4万4000鉢を出荷。富田さんは「自慢のシクラメンをより多くの人に楽しんでもらえた」と笑顔を見せた。

シッター
チャンス



富田花園に並ぶ色鮮やかなシクラメン

秦野駅前支店を南支所に統合

長年にわたる組合員・利用者の皆さまにご利用いただき、ご不便をお掛けしますが、2020年2月21日(金)で営業終了。同25日(火)以降は、南支店まで。081-136922

2020年2月21日(金)で営業終了

県茶園共進会でも山口勇さん大臣賞 県初のダブル受賞

茶園で「わさびや茶園」を営む山口勇さんは、11月13、14の両日に、同省では、経営局協同組織課の職員が、農協改革の進捗について、山口さんらと意見交換した。

山口さんは、2・5畝の茶畑で「やぶきた」など8品種を栽培。施肥や整枝などの栽培管理を徹底して、良質な茶を生産している。

共進会では、樹勢や土壌管理など5項目を審査。カヤなどを土壌にすき込み、冬の乾燥を防ぐとともに、保肥力を高めたい茶を作ったと意気込みを語った。

山口さんは、2・5畝の茶畑で「やぶきた」など8品種を栽培。施肥や整枝などの栽培管理を徹底して、良質な茶を生産している。

共進会では、樹勢や土壌管理など5項目を審査。カヤなどを土壌にすき込み、冬の乾燥を防ぐとともに、保肥力を高めたい茶を作ったと意気込みを語った。

国政学習会で情報共有

JAはだのは19日、東京都千代田区にある農林水産省と衆議院第一議員会館で国政学習会を開いた。山口政雄組合長をはじめ、JAの農政対策委員を務める理事、生産組合長、女性部員、青年部員、市の農業委員の他、

農協改革や農業課題 牧島議員らと意見交換

JAはだのは19日、東京都千代田区にある農林水産省と衆議院第一議員会館で国政学習会を開いた。山口政雄組合長をはじめ、JAの農政対策委員を務める理事、生産組合長、女性部員、青年部員、市の農業委員の他、

山口政雄組合長をはじめ、JAの農政対策委員を務める理事、生産組合長、女性部員、青年部員、市の農業委員の他、

J A はだの

発行 市農業協同組合 (神奈川県)

〒257-0015 秦野市平沢477 電話0463(81)7711(代) 発行責任者 宮永 均

今月の特集 4〜5面

イチゴの季節が到来

幅広い世代から人気が高い秦野産のイチゴが、今年も収穫シーズンを迎えた。良質な秦野産のイチゴは、さまざまな形で市内外の消費者に親しまれている。

大寒卵を紹介

1月18日(土)午前8時から放送する、FMヨコハマ「JA Fresh Market」は、二十四節氣の一つ「大寒」に生まれた「大寒卵」を取り上げます。

JA Fresh Market

特産「峠漬」再び販売開始

若手グループ伝統を守る

加工グループの解散によって販売が一時休止していた峠地区の特産品「峠漬」。長年続く地域の伝統を守ると、同地区の若手加工グループ「峠屋」1976が、生産を始め、ついに販売にこぎつけた。11月から再び販売が始まった「峠漬」は、人気の高さからすでに完売。メンバーは

「峠漬」と「峠の粕漬」を手にする

「峠屋」1976のメンバー

接近! おじまはす

露地野菜を栽培している八沢の小宮隆良さん。農家の家庭に生まれ育ち、高校卒業後は当時松田町にあった食糧庁の食糧事務所に就職した。米や麦を検査する仕事などに日々従事する一方で、休日には合計80坪の畑で果樹や野菜の栽培に汗を流し、忙しい毎日を送っている。

農業と趣味で日々充実

八沢の小宮隆良さん(81)

退職後は7時まで規模を減らしたものの、現在も畑に毎日足を運び、ジャガイモやタマネギなど6品目を栽培。農薬を使わずに育てた新鮮な野菜を食べる。仲間10人と年に8回、

小宮隆良さん(81)

農業ファン拡大へ 青年部が創意の活動

豊かな心を育んで 花いっぱい運動に力

2日には「花いっぱい運動」の一環で、市内の保育園や幼稚園、JAの各支所・支店など35カ所とガーデンシクラメンをに、部員が育てた花を植寄せ植えたプランターを、

園児と交流を深める高橋委員長

部員5人の畑でダイコンを収穫

畑での収穫体験も ユースマルシェ展開

ユースマルシェは、毎月第1土曜日に実施している。じばさんや家族連れ約90人が参加し、部員が管理する畑を巡り、ニンジンを収穫。収穫した野菜や果物を、部員と交流を深めた。

ツイッターに アカウント SNS上PR

ユースマルシェの観光農業イベントを開くグループは、PR方法にも工夫を凝らしている。11月には、インターネット交流サイト(SNS)のツイッターに公式アカウントを開設。アカウント名は「@HadanoYouth」。農業の魅力やユースマルシェを広くPRしている。

やえのちゃんぴーなマンの「JAってなに??」

前回「秦野市都市農業振興計画」について教えた。その中の「農業経営の安定化と担い手の育成と確保」に関するところを教えてください。

農業経営の安定化については、地域農業の担い手に向くJA担当者(TAC)が農家に栽培や農業に関する情報を発信したり、JAグリーンはだのが生産資材価格の低減や安定供給に努めたりしている。加工相談会を開いて、農産組合長や自治会長などを経験し、地域に貢献してきた。

さらに、毎月第2水曜日に同地区のかわじ荘で開かれているデイスサービスには、民生委員と一緒にボランティアとして参加し、イベントを盛り上げている。自身も、JAのお茶飲み交流会や年金旅行などに必ず参加し、他の参加者らと交流を深めている。

小宮さんは、今後も農業に励みながら健康に気を付け、仲間と一緒に楽しく過ごしていきたい」と笑顔を見せた。

農業経営守るTAC活躍

産組合長や自治会長などを経験し、地域に貢献してきた。

さらに、毎月第2水曜日に同地区のかわじ荘で開かれているデイスサービスには、民生委員と一緒にボランティアとして参加し、イベントを盛り上げている。自身も、JAのお茶飲み交流会や年金旅行などに必ず参加し、他の参加者らと交流を深めている。

小宮さんは、今後も農業に励みながら健康に気を付け、仲間と一緒に楽しく過ごしていきたい」と笑顔を見せた。

市長に農産物贈る 継続的な支援を要請

J A 産種別部会の3組 産物を高橋昌和市長に贈った。日頃の支援に対する感謝を伝えるとともに、継続的な支援を要請した。



鉢花を贈る草山部長ら



キウイフルーツを渡す恩蔵部長ら



野菜を渡す施設部の部員

篤農家ら23人を表彰 大山阿夫利神社で新穀感謝祭



米や麦など 神前に奉納

伊勢原市大山阿夫利神社事務所5日、第55回新穀感謝祭が開かれた。崇敬農家が五穀豊穡（ごこうほうじょう）に感謝し、米や麦などの穀物を神前に奉納するもの。J A はだのや J A 湘南の組合員ら200人以上が参列した。

新穀感謝祭では、厳かに神事が執り行われた。篤農家と J A 職員が、

表彰した。J A はだの管内での受賞者は次の通り。

◇篤農家▽大根地区Ⅱ 平井修二（北天寺 北村 睦（鶴巻）佐藤信夫（鶴巻）井上昌彦（三廻部）須藤三三（菅浦）

◇職員▽森繁和（経済部経済課物流センター係

地区Ⅱ大澤豊（堀山下）森谷保夫（堀西）谷賀治（千村）諸星義晴（沢 沢）▽上地区Ⅱ守屋照男（柳川）中津川一雄（八ッ 沢）井上昌彦（三廻部）須藤三三（菅浦）

◇職員▽森繁和（経済部経済課物流センター係

5月上旬まで次々出荷



イチゴの品質を確認する部員

いよいよ出番

愛される良質な秦野産

11月29日には、2019年産のイチゴが初出荷を迎えた。やさい部会いちご部の部員ら8人が、

今年度は、イチゴの定植後に日照不足が続く、生育の遅れが心配されたが、部員は適切な栽培管理を徹底。例年通り11月下旬の出荷にこぎつけた。

検査員を務める部員が、果実の大きさや形などをチェックした。イチゴは神奈川青果（株）秦野市場を通じて県内のスーパーなどに出荷される他、じばさんずや特産センター渋沢店にも並んでいる。来年5月上旬までに5

摘み取り 準備着々

待ち遠しい1月中旬開園

県内外から毎年2万2000組以上の来園者が訪れる市内のイチゴの摘み取り園。現在、若手農家4人が開園し、摘み取りのイチゴのおいしさを多くの観光客に伝えている。

イチゴの摘み取り園「石田ファーム工房」を営む横野の石田昌亮さんも、今シーズンの開園に向けて準備を進めている。同園は、2011年に市内で初となるイチゴの摘み取り園として

市内洋菓子店も地場産応援

来店者に魅力発信

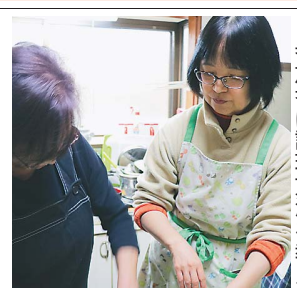
秦野産のイチゴは市内の洋菓子店などでも使用されている。い世代の来店者に、秦野産の魅力曲松の洋菓子店「パティスリー クラベリーナ」も使用店の一。同店では毎年、秦野産のイチゴを使ったケーキやタルトを、など5品種。洋菓子作りのこだわりは、仕入れたイチゴはその日に使い、なるべく加工せず、イチゴ本来の味を生かすこと。ショートケーキには、イチゴの味が濃い「おいしベリ」をケーキの上に乗せ、みずみずしい「章姫」はスポンジに挟むなど、品種の特徴に合わせて使い分けている。

オーナシェフの吉田伊織さんは「地場産の農産物を洋菓子にすることで、商業者の立場から秦野の農業を応援していきたい」と意気込みを語った。

新鮮野菜で 料理教室

平沢の体験型農園

平沢で体験型農園「名水湧く湧く農園」を管理する和田礼子さんは7日、東田原の吉田教子さんと協力し、同園で料理教室を開いた。「畑のご馳走クッキング教室」と題して料理を紹介。参加



参加者に調理方法を教える吉田さん



台風の被害状況を説明する三武さん

准組合員の地域 農業理解促進へ

支所運営委 多彩な活動

畑を見学し 収穫作業も

西つごい西支所運営委員会は14日、曽屋の草山花園で花の寄せ植え体験を行った。参加者はキャベツとダイコンの収穫を体験。ニンジンやハクサイ、ネギも土産として持ち帰った。



寄せ植えの 楽しさ満喫

本町で体験会

た。同支所管内の准組合員18人が参加し、同園が生産している花などを使った寄せ植えを作った。

参加者は、ハボタンやピオラ、松など10品目の中から好みの6品目を選び、寄せ植え作りを開始。委員を務める同園の草山邦彦さんのサポートを受け、寄せ植えを完成させた。

田中和幸委員長は「今後も農家と連携したイベントを企画し、地産地消の大切さを多くの准組合員に伝えていきたい」と意気込みを語った。

は今のよう

に暖房設備

もなかった

ので、冬場

のハウス内

の温度管理

が難しく、

凍らないよ

うにするの

が大変だった

たとき

を振り返

当初は暖房設備もなく苦勞

現在流通しているイチゴは、1800年ごろのオランダで、南アメリカ原産のチリ種と北アメリカ原産のパーシニア種を交配して生まれたとされている。日本にイチゴが伝わったのは江戸時代末期で、当時は観賞用だった。その後、1899年にフランスの品種が導入されたことで、本格的な栽培が始まったといわれている。

市内栽培は1957年から



イチゴを収穫する山口さん

部会（いちご部）を設立し、市内全域で栽培されるようになった。現在は、部員10人が約1畝の圃場（ほじょう）で生産している。

部員の一人、堀西の山口新次さんは、67年に5人の仲間とともにイチゴの栽培を始めたベテランだ。栽培当初は、約7坪のハウスで「福羽」に合せて水やりや施肥などを調整を育て、J A に出荷していた。「昔し、高品質なイチゴを作っている



イチゴの魅力たっぷりのスイーツ

発見 見張り

No.438

日本酒の魅力伝える



日本酒やワインなどを販売する旬片倉商店を営む片倉邦雄さん。父がオープンした同店をいつかは継ごうと考えていたことから、大学在学中から日本各地の蔵元や酒屋を巡っていた。しかし、酒類販売に関する規制緩和が

進むなど、個人店への逆風が吹いている状況に危機感を感じ、卒業と同時に同店を継いで販売している商品。販売する日本酒などの種類を絞って、川西屋酒店が作っている「隆（りゅう）」家族で農業に力を入

秦野市展で J A 組合長賞



水野静子さん（美術の部）

山口勇さん（写真の部）

来年11月まで展示

第49回秦野市展（書道の部・美術の部・写真の部）が、クアーズテック秦野カルチャーホー

ルで開かれ、J A はだのから特別賞として秦野市農業協同組合長賞を授与した。今年度の受賞作品は、来年11月まで J A はだの本所に展示する。

供養祭終了後は、同ホールでの21周年記念会を開催した。今回は近年需要が高まっている家族葬をテーマに、小規模な葬儀のセットを用意。来場者からは葬儀の流れや価格などについて多くの質問が挙がった。

人形など供養

J A セレモニ

J A セレモニホールは、だのは11月30日「ぬいぐるみ・人形供養祭」を開いた。組合員らが持ち寄った合計3000体の縫いぐるみや人形を供養した。

供養祭は、地域貢献活動の一環として2007年にスタートしたもの。今年で13回目。導師の読経の中、参列者は焼香し、縫いぐるみや人形に別れを告げた。

